

## まえがき

光華女子学園の建学の理念は「仏教精神にもとづく教育」を推進することにあるとされます。私たち学園に身を置く者、特にその教職にある者は、「仏教精神とは何か」を十分理解していなければ、職務を全うすることができないこととなりますが、仏教精神の精髓を理解することはなかなか容易なことではありません。

なるほど、仏教とは「仏陀（釈迦・釈尊）の教え」であり、仏教精神とは「釈尊の教えにもとづく精神」であると言えば、一応形式的な説明はできます。しかし、これだけでは内容については少しも説明したことにはならないし、何も分かりません。そこで浅はかな智慧をしほって、仏教精神とは「仏の慈悲の心であり、和の精神である」と言えば、少し仏教精神を明らかにしたような気になります。さらに「慈悲の心」を敷衍して、それは「慈しみの心であり、思いやりの心である」と易しく表現すれば、さらに分かったような気になります。また「和の精神」とは「皆が仲良くする

ことだ」と説明すれば、子どもでも理解してくれるような気がします。でも、最近慈悲というのは「思いやりの心ではない」と聴きましたし、「皆が仲良くすること」は何も仏教の専売特許ではないと思われれますから、これだけでは仏教精神を説明したことにはならないでしょう。

そこで仏教精神を理解するためには、仏教そのものをより深く理解しなければなりません、それはまた大変なことであります。釈尊の教えであるとされる経典・仏典は膨大なものであり、それらを解釈し、解説する教典・教派は、その重点の置きどころにより、幾十幾重にも分かれていて、それらを辿って行くうちに、そのどれを信じていいか分からなくなります。「眞実は一つだ」と言われますが、果たしてそれが眞実であり、眞説なのでしうか。

仏教精神と言えば、上述のような「慈悲の心」とか、「和の精神」というのが、あたらすと言えども遠からずの感じがするのですが、仏教の本質は「縁起」説(この世にある全てのものは縁Ⅱ因縁Ⅱ関係性によって成り立っていると説)にあるとか、「四法印」(諸行無常・諸法無我・一切皆苦・涅槃寂靜)にあるとも言われますから、

これらの本質的な考え方と上に述べたような仏教精神との結びつきがまたまた分からなくなりました。ことほどさように、仏教の考え方は実に多様な側面を持っており、また深遠な哲学に支えられていますから、簡単に理解しようとするのが無理なのかもしれません。

本学の宗教講座は、近年は、毎年四回開催され、それぞれ仏教の専門家に多様な側面からお話をしていただいております、それらは全てこの『真実心』シリーズに収録されていますから、それらのお話を聴いたり、シリーズを読み続けることによって、次第々に仏教や仏教精神を理解して行くほかはないのかもしれませんが。

仏教や仏教精神に直接関わらない仕事に就いている人あるいはこれから就く人も、臆げながらも、それらを理解しておくことは、これからの人生をより豊かにして行くために必要であり、また有益だと思われまますから、是非この『真実心』を活用して欲しいと思います。

京都光華女子大学・  
同短期大学部

学長 高木英明